

主催：全模研

第10回

全国中高教育 模擬国連大会

AJEMUN

～高校生の高校生による高校生のための模擬国連大会～

Agenda

『国際刑事裁判所改革』

Review of the International Criminal Court

Date&Venue

8/8(土)～8/9(日)

国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京・代々木)

目次

目次	2
大会実行委員長の挨拶	3
セクションリーダーの挨拶	4
運営受付セクション	4
フロントセクション	5
広報セクション	6
大会事務局長の挨拶	7
基調講演	8
スケジュール	9
会場地図	10
参加校一覧(公開日時点)	11
後援団体	12
協賛企業	12
助成団体	12
大会実行委員一覧	13
大会事務局一覧	14

大会実行委員長の挨拶

下司さくら(土浦日本大学中等教育学校)

皆さん、こんにちは。第10回全国中高教育模擬国連大会(AJEMUN)の実行委員長を務めております、下司さくらと申します。

はじめに、今年もこうして大会を開催できること、さらに、全国138校から865名の方にご応募いただきましたこと、大変嬉しく思います。改めて、大会開催に向けて尽力していただいている実行委員会、事務局の皆様、各校の先生方、スポンサーの皆様、ご応募いただいた参加者の方々に深く感謝申し上げます。

今年度の議題は「国際刑事裁判所改革」。「国際刑事裁判所(ICC)」、日常生活で耳にする機会が少なく馴染みのない議題に感じられたかもしれません。ですが、今国際刑事裁判所について議論することは重要な意義を持つと私は考えています。

昨今、国際情勢は大きく揺れ動いています。ニュースや新聞を見れば必ず紛争や不安な国際情勢の情報が私たちの目に入ってきます。国際刑事裁判所はその構造上の欠点がよく取り上げられる一方、紛争や重大犯罪の対応、抑止に尽力してきた機関であり、今後もさらなる発展が期待されています。次世代を担う中高生がこの議題について話し合うということは、今後の国際社会の紛争や重大犯罪について、国際刑事裁判所の改革を通して、その抑止と対応を考えるということでもあるのです。

さて、参加者の皆さんにおかれましては、大会に向けての準備が本格化し始める頃かと思います。そこで、皆さんにぜひ意識してみしてほしいことがあります。それは、ペアとのコミュニケーションをしっかりととるということです。事前準備において大切なことはたくさんあります。BGについて理解を深める、自身の担当国について知る、言語の壁を越えて様々な情報を調べてみる、論文や書籍を読む、有識者の方にお話を聞いてみる、もちろんどれも非常に重要なことです。しかし、大会当日、力を十分に発揮するにはペアとの信頼関係がなにより大切だと私は考えています。時には、意見が対立して準備がうまくいかないこともあるかもしれません。ですが、そんな時こそ互いの主張に耳を傾け、納得いくまで話し合ってみてください。そこで培われた対話力や対応力、信頼関係は必ず本番でも生きてくると私は信じています。

大会まであと少しとなりました。リサーチと対話を重ね、当日、白熱した議論が繰り上げられることを楽しみにしております。暑い日が続きますが、体調に十分気を付けながら、引き続き会議準備を進めてください。実行委員一同、大会当日まで全力で準備を進めてまいります。8月8日、オリンピックセンターにて皆さんにお会いできることを心待ちにしております。

セクションリーダーの挨拶

運営受付セクション

石井 虹衣(帝京高等学校)

皆さん、こんにちは。

この度、第10回全国中高教育模擬国連大会において、運営受付セクションリーダーを務めさせていただきます。帝京高等学校3年の石井虹衣です。この度は、第10回全国中高教育模擬国連大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まずはこの場をお借りして、本大会の開催に向けてご尽力いただきました事務局の皆さま、顧問の先生方、後援団体・協賛企業の皆さま、そして何より実行委員の皆さんに改めて心より感謝申し上げます。

さて、大会当日が近づいてまいりました。本大会への参加が初めてという方も多いことでしょう。初めての会議では、会場の雰囲気や圧迫感に圧倒され、発言することに緊張や不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、一歩勇気を踏み出して発言した経験や、他の大使との議論を通して得た学びは、きっと皆さんにとって大きな財産になるはずです。一方で、これまでに模擬国連に参加したことがある方も、さらなる高みを目指し、大使同士で切磋琢磨しながら、それぞれが掲げる目標や賞の獲得に向けて、全力で取り組んでいただければと思います。

模擬国連は世界に目を向け、自身の視野を広げることができる場です。馴染みのある国も、初めて知る国も、担当国のリサーチを進めることでその国への理解を深め、新たな魅力や課題を発見できることが、模擬国連の魅力の一つであると私は考えています。そうして担当国について理解を深めた皆さんが一堂に会し、それぞれの立場から現状をより良くするために議論を重ねる模擬国連が、私は大好きです。本大会では、皆さんの白熱した会議を拝見できることを楽しみにしております。

運営受付セクションでは、皆さまが安心して大会に参加し、充実した時間を過ごせるよう、全力でサポートいたします。そして、大会を終えたときに「参加してよかった」と感じていただければ幸いです。また、1日目の会議終了後には交流会を実施いたします。会議中は緊張感があり、張りつめた空気が続きますが、全国から約900名の模擬国連を愛する仲間が集まる貴重な機会でもあります。ぜひ交流会にもご参加いただき、大使としてだけでなく、一人の参加者として全国の仲間との交流を楽しんでいただけたら嬉しいです。

本大会を通して得た知識や経験、そして出会いを大切に、今後の模擬国連の活動や日々の生活にも活かしていただければ幸いです。

暑い日が続いておりますので、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。大会当日、皆さまとお会いできることを心より楽しみにしております。

フロントセクション

坂本留梨子(渋谷教育学園渋谷高等学校)

皆さま、こんにちは。第10回全国中高教育模擬国連大会(AJEMUN)でフロントセクションリーダーを務めます、坂本留梨子と申します。この度は本大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

まずはじめに、本大会の開催にあたり、ご支援・ご協力くださった関係者の皆さまに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、私たちが模擬している国連は、現在、創設以来最も深刻な財政危機に直面しています。主要加盟国による分担金の未払いが続く中、国連は、現在の資金状況のままでは2026年8月末頃までに資金が枯渇する可能性があると公表しました。グテーレス事務総長は昨年からの組織改革「UN80」を進め、財政健全化に取り組んでいます。しかし、財政危機に伴う予算削減は、PKOをはじめとする平和維持活動や人道支援など、世界各地で人々の命や平和を支える活動にも影響を及ぼし始めています。

このような現実を前に、皆さまは何を感じるでしょうか。紛争や貧困、そしてそれらと繋がる国際司法の課題は、決して遠い世界の出来事ではありません。一人の若者として、一人の市民として、国際社会の在り方を主体的に考え、より良い未来を模索していくことが求められています。そしてその第一歩が、模擬国連にあると私は信じています。

本大会の議題である「ICC改革」は、まさに現在の国際情勢と深く結びついたテーマです。ローマ規程に加盟していない主要国の存在や、締約国でありながらICCの逮捕状を履行しない事例など、国際刑事司法制度には多くの課題が残されています。複雑な論点だからこそ、それぞれの国益や価値観を踏まえながら、多角的な視点で議論を深めていただければ幸いです。

また、今年で第10回を迎えるAJEMUNには全国から総勢865名の参加者が集います。全国最大規模の模擬国連大会であるAJEMUNは、競い合う場であると同時に、新たな仲間と出会い、互いに学び合う場でもあります。会議の内外を通して、模擬国連だけでなく、ビジネスや探究活動など、様々な分野で挑戦を続ける刺激的な仲間と出会う機会が数多くあるはずです。ぜひ、このAJEMUNならではの環境を存分に楽しみ、一つ一つの出会いを大切にしてください。

本大会が皆さまにとって実りある経験となるよう、勉強会・練習会議から大会当日まで、フロントセクション一同、全力でサポートしてまいります。未来を担う皆さま一人一人にとって、かけがえのない時間になることを願っています。

それでは、大会当日にお会いできることを楽しみにしています。頑張りましょう！

広報セクション

鷺内 芽生(渋谷教育学園幕張高等学校)

皆様こんにちは！

2026年全国中高教育模擬国連大会広報セクションリーダーを務めさせていただき渋谷教育学園幕張高等学校3年生の鷺内芽生です。

まず初めに、サポートをしていただいている顧問の先生方、貴重なアドバイスをくださった過去の運営メンバー、事務局や協賛企業の皆様、そして他に関わる全ての方々に、心より感謝申し上げます。皆様の支えがあったからこそ「第10回」というマイルストーンを迎える第10回のAJEMUNを開催できることを大変光栄に思っております。

2017年の初年度に「核軍縮」を議題として始まった本大会は、毎年のアドバイスと改善点を丁寧に積み重ね、より良い会議を目指していきました。そして今年、AJEMUNは過去最大規模の計865名の大使の皆様をお迎えすることになりました。参加者が増えたことによって「上手く発言できるか」「他の大使と連携が取れるか」と不安を抱えている方も多いかと思いますが、恐れずに勇気を出し、全力で会議に取り組んで欲しいです。会議中の挑戦や交流会の楽しみを全て含めて学びと発見の充実した二日間を過ごしていただけると願っております。

今年の広報セクションはアクセシビリティに注目し、今回の議題である「国際刑事裁判所」の色である「青」をテーマにし、ポスターデザインやAJEMUNインスタ(@ajemun2026)にて質問ボックスを投稿しています。広報チーム内でもやることを分担し、一人一人が責任を持ち、主体的に取り組んでいます。今年の運営は当日も短いインタビュー企画など真剣に模擬国連へ取り組む時間と友達や他の大使と仲良くなれる企画を用意できたらと思います。数ヶ月前からミーティングを頻繁に開催し、最初の顔合わせから大会に至るまで、常に情熱を持って行動してくれた広報セクションのメンバーには感謝の言葉しかありません。

当日はここまで重ねてきたリサーチや準備の成果を元に熱心に議論する姿を見ることを楽しみにしています。議題は全く同じであっても、そこに集まる大使たちの国の解釈や知識によって別の方向性に進むでしょう。広報セクションは議場を駆け回り、可能な限り多くの瞬間を記録したいと思います。

この大会によって、皆様にとって新たな経験になり、全国からの仲間と会う一生記憶に残る会議になるように、これからも頑張っていきます。

皆様にお会いできるのを楽しみにしています！

大会事務局長の挨拶

宮坂武志（浅野中学校・高等学校）

「だれもが気軽に参加できる模擬国連の全国大会を開催しよう」――。

模擬国連に関わる高校教員の有志10名ほどで立ち上げたのが、2016年のことでした。翌2017年、第1回大会は、ここ国立オリンピック記念青少年総合センターで行われました。それから毎年開催（コロナ禍のオンライン開催も含む）を重ね、今大会で10回目を迎えることとなります。ここまで続けてこられたのも、本大会の趣旨に賛同し、ご参加・ご協力くださった皆様のお力添えの賜物です。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

今大会の議題は「国際刑事裁判所（ICC）改革」です。近年のAJEMUNでは、全国の高校生から公募したBG（議題概説書）案の中から選考を経て議題を採用しています。今年も応募していただいたBG案は、いずれも意欲的で魅力にあふれるものばかりでした。なかでも、ICCという国連から独立した国際機関を取り上げた本議題は、現在の国際情勢に照らしても時宜を得たものであり、非常に有意義な議論が展開されることを期待させる内容でした。

戦争犯罪などの「個人」の行為や責任を裁く国際機関の改革というテーマは、中高生にとって決して簡単な議題ではありません。しかし、日本がICCの予算分担金において最大の拠出国であるという事実を踏まえれば、私たちにとって決して他人事ではないはずです。何より、現在ICCのトップ（裁判所長）を務めているのは、日本人の赤根智子氏です。2024年の就任時にニュースで大きく報じられたのを覚えている人も多いでしょう。極めて困難な状況に直面するICCの最前線で奮闘する赤根氏は、その現状と課題をご自身の著書でも臨場感をもって伝えています。このように日本人が世界の舞台で活躍している国際機関だからこそ、この機会にぜひ皆さんにはICCへの理解を深めてほしいと思います。

一方で、実際のICCの加盟国は125カ国にとどまります。模擬国連では欠かすことのできない米国・ロシア・中国などの主要国はいずれも非加盟国であり、今大会の参加国として設定することはできませんでした。当初は国連の場でICC改革を議論することも検討しましたが、より現実に応じた会議設定を目指し、最終的にICCの最高意思決定機関である「ローマ規程締約国会議」を舞台としました。

大会の2日間、大使の皆さんはこの難しい議題に挑み、少しでも明日の世界が平和になるために討議し交渉を重ねてください。最終日に提出される決議案に盛り込まれた皆さんの新鮮な文言やアイデアが、赤根氏をはじめとするICCスタッフの皆様に励ましと勇気を与えるメッセージとなることを切に願っています。

基調講演

越智 萌(おちめぐみ) 氏

立命館大学大学院国際関係研究科准教授



プロフィール

立命館大学大学院国際関係研究科・国際関係学部准教授(博士(法学))。最近の研究対象は、国際刑事法の哲学的・手続的問題、変革的正義、法源と標準、国内の戦争犯罪裁判、デジタル証拠、犯罪アーカイブなど。最近では、「変革的正義」と題する学際的なプロジェクトを運営しており、ウガンダやフィリピンにおける国際刑事裁判所(ICC)と被害者とのコミュニケーション・デザインや、立命館大学国際平和ミュージアムと協力して「戦争犯罪アーカイブ化」に関するサブプロジェクトを組織している。

多数の研究成果が、Journal of International Criminal Justice、International Criminal Law Forum、Asian Journal of International Lawといった国際法・国際刑事法の主要雑誌に掲載されている。日本語で3冊のモノグラフを出版、2冊を共同編集した。2冊目のモノグラフの英語版が出版されている: The Premises of International Criminal Procedure: Identifying the Principles in International Collaboration (Springer、2024年)。「国際刑事手続法の研究」で2025年に文部科学省の科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞。

大阪大学大学院法学研究科修了(博士(法学))、オランダのライデン大学ロー・スクール修了(修士(法学))、大阪大学大学院国際公共政策研究科修了(修士(国際公共政策))、大阪大学外国語学部卒業(言語・文化学士)。Case Matrix Network (CMN) のシニアフェロー(2016年～)、国際刑法学会(AIDP)の理事会メンバー(2014年～)、国際法学会理事(2026年～)を務める。ドイツ・フライブルクにあるマックス・プランク(犯罪、安全と法)研究所の客員研究員、および国際刑事裁判所(ICC)予審裁判部インターンを経験。

スケジュール

時間	8月8日(土) 第1日目	時間	8月9日(日) 第2日目
9:00	受付開始	9:00	議場入場開始
9:30	開会式	9:20	会議開始
10:25	各議場へ移動	11:40頃	写真撮影 昼食40分(議場ごとに適宜)
10:30頃	会議開始	13:30	DR提出
12:30頃	昼食40分(議場ごとに適宜)	14:40	表彰のための大使間投票 (DR投票前)
15:40	WP提出	15:15	会議終了
16:45	会議終了・諸連絡	15:45	閉会式
17:15~18:15	交流会 (参加は任意)	16:30	完全退場

※時間は多少前後する可能性があります。

※会議前、昼食や休憩中は他国との交渉は一切禁止です。

※会議開始前10分間に、第1弾のメモを封筒へ投函してください。

※受け付けは1日目のみ行います。2日目は各自で議場に入り着席してください。

会場地図



議場	会場
A議場	カルチャー棟 大ホール
B議場	カルチャー棟 小ホール
C議場	国際交流棟 国際会議室
D議場	センター棟 101
E議場	センター棟 102
F議場	国際交流棟 レセプションルーム
G議場	国際交流棟 レセプションルーム

施設の案内 Map of the Center

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
申込受付専用電話 03(3469)2525 FAX. 03(3469)2277
ホームページ <http://nyc.niye.go.jp>



交通案内

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分 [代々木公園方面出口]
- 京王バス 新宿駅西口(16番)より 代々木5丁目下車 渋谷駅西口(14番)より



参加校一覧(公開日時点)

愛知高等学校	済美高等学校	藤沢翔陵高等学校
青山学院大学系属浦和ルーテル学院中学校	札幌日本大学中学校・高等学校	富士見丘高等学校
浅野中学校・高等学校	自修館中等教育学校	武南学園
アサンプション国際中学校高等学校	実践女子学園中学校高等学校	法政大学国際高等学校
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	渋谷教育学園渋谷中学高等学校	本郷中学校・高等学校
茨城県立竹園高等学校	渋谷教育学園幕張高等学校	松商学園高等学校
英理女子学院高等学校	嶋田学園飯塚高等学校	松本秀峰中等教育学校
S高等学校	島根県立出雲高等学校	松本秀峰中等教育学校
江戸川学園取手高等学校	就実高等学校	三重県立桑名西高等学校
N高等学校	修道高等学校	三田国際科学学園中学高等学校
桜花学園高等学校	十文字高等学校	宮城県仙台二華高等学校
鷗友学園女子中学高等学校	淑徳高等学校	三輪田学園
大阪府立北野高等学校	頌栄女子学院中学高等学校	明星中学校・高等学校
大阪府立水都国際中学校	常翔啓光学園高等学校	茗溪学園中学校高等学校
大谷中学・高等学校	昌平高校	八千代松陰学園
大妻多摩高等学校	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	山形県立山形東高等学校
大妻中学高等学校	女子聖学院高等学校	山形県立米沢興譲館高等学校
お茶の水女子大学附属高等学校	私立関東学院高校	山梨県立甲府西高等学校
小林聖心女子学院高等学校	水城高等学校	山脇学園中学校・高等学校
小林聖心女子学院高等学校	逗子開成中学校・高等学校	横浜隼人中学・高等学校
海城	清教学園高等学校	横浜雙葉高等学校
開成高等学校	聖光学院中学高等学校	四谷学院高等学校
開智中学・高等学校	聖心女子学院中・高等科	ラ・サール高等学校
海陽中等教育学校	清泉女学院中学高等学校	立教女学院高等学校
かえつ有明中・高等学校	聖隷クリストファーグローバルスクール中高等部	立命館中学校高等学校
鹿児島情報高等学校	玉川学園高等部	リンデンホールスクール中高等部
学校法人希望学園 北嶺高等学校	中央大学杉並高等学校	
神奈川県立厚木高等学校	土浦日本大学中等教育学校	
神奈川県立横浜国際高等学校	帝京高等学校	
神奈川県立横浜翠嵐高等学校	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校	
神奈川県立横浜国立大学附属中・高等学校	帝塚山学院高等学校	
関西大学中等部	田園調布学園中等部	
関東第一高等学校	桐蔭学園高等学校	
北里大学付属順天高等学校	東京学芸大学附属国際中等教育学校	
岐阜県立各務原西高等学校	東京女学館中学高等学校	
岐阜県立岐阜高等学校	東京都市大学等々力中学高等学校	
岐阜県立多治見北高等学校	東京都立小石川中等教育学校	
京都市立日吉ヶ丘高等学校	東京都立西高等学校	
京都府立北稜高等学校	東京農業大学第一高等学校・中等部	
公文国際学園中等部・高等部	東京農業大学第三高等学校	
クラーク記念国際高等学校 CLARK SMART	東邦大学付属東邦高等学校	
クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス	豊島岡女子学園中学・高等学校	
クラーク国際記念高等学校横浜青葉キャンパス	栃木県立佐野高等学校	
群馬県立中央中等教育学校	鳥取県立倉吉東高等学校	
慶應義塾中等部	鳥取県立鳥取県立鳥取東高等学校	
恵泉女学園中学・高等学校	鳥取県立米子東高等学校	
光塩女子学院高等科	富山国際大学付属高等学校	
晃華学園中学校高等学校	名古屋市立北高等学校	
佼成学園女子高等学校	名古屋中学校・高等学校	
高知県立中村高等学校	南山高等学校 女子部	
高知県立橋原高等学校	新潟県立直江津中等教育学校	
國學院高等学校	西大和学園高等学校	
国際基督教大学高等学校	広尾学園高等学校	
駒澤大学高等学校	フェリス学院 高等学校	
駒場東邦中学校・高等学校	福井県立敦賀高等学校	
埼玉県立伊奈学園総合高等学校	福知山成美高等学校	

後援団体・協賛企業一覧(公開日時点)

後援団体

外務省

国連広報センター

日本国際連合協会

日本私立中学高等学校連合会

文科省

ユネスコ・アジア文化センター

協賛企業

株式会社 第一学習社

株式会社 帝国書院

実教出版株式会社

助成団体

公文国際奨学財団

大会実行委員一覧

【実行委員長】

下司 さくら（土浦日本大学中等教育学校）

【運営受付セッション】

石井 虹衣（帝京高等学校）
趙 俊禹（東京都立白鷗高等学校）
國島 理央（帝京高等学校）
田村 陽菜乃（山脇学園高等学校）
高田 幸尚（玉川学園高等部）

石川 恵都リアン（公文国際学園高等部）
スハイラ アファズ（江戸川学園取手高等学校）
野々村 初音（鷗友学園女子高等学校）*フロント兼任*
田中 琉愛（田園調布学園高等部）*フロント兼任*
内山 葵（京華女子高等学校）*フロント兼任*

【フロントセッション】

坂本 留梨子（渋谷教育学園渋谷高等学校）
福島 莉那（島根県立出雲高等学校）
道堀 果歩（土浦日本大学中等教育学校）
松本 菜奈（帝京高等学校）
西岡 誠翔（帝京高等学校）
河本 清香（中央大学杉並高等学校）
嶋村 翔（中央大学杉並高等学校）
萩原 育斗（中央大学杉並高等学校）
岡本 侑理（浅野高等学校）
川口 結愛（清教学園高等学校）
西野 夏海（清教学園高等学校）
長谷川 怜美（実践女子学園高等学校）

高橋 瑠佳（実践女子学園高等学校）
田崎 友梨（四谷学院高等学校）
伊藤 優那（公文国際学園高等部）
大澤 初音（公文国際学園高等部）
水木 颯人（玉川学園高等部）
小嶋 連太郎（岐阜県立岐阜高等学校）
佐藤 主悟（海城高等学校）
野々村 初音（鷗友学園女子高等学校）*運営受付兼任*
田中 琉愛（田園調布学園高等部）*運営受付兼任*
内山 葵（京華女子高等学校）*運営受付兼任*
石井 香帆（鷗友学園女子高等学校）*広報兼任*
中山 貴美子（中央大学杉並高等学校）*広報兼任*

【BG担当】

荒川 香貴（三田国際科学学園）*フロント兼任*
室井 和美（三田国際科学学園）*フロント兼任*
柳瀬 健翔（三田国際科学学園）*フロント兼任*

【広報セッション】

鷺内 芽生（渋谷教育学園幕張高等学校）
北野 双葉（福井県立敦賀高等学校）
植田 悠莉（神戸国際高等学校）
石井 香帆（鷗友学園女子高等学校）*フロント兼任*
中山 貴美子（中央大学杉並高等学校）*フロント兼任*

***太字はセッションリーダー

大会事務局一覧

大会事務局長

宮坂 武志(浅野中学校・高等学校 教諭)

フロントセクション

末廣 彬(帝京中学校・高等学校 教諭)

室崎 摂(明星学苑 明星Institution中等教育部 教諭)

澤田 宏(岐阜県立岐阜高等学校 教諭)

飯島 裕希(お茶の水女子大学附属高等学校 教諭)

後藤 芳文(元玉川学園中学部・高等部 教諭)

中川 慶(横浜隼人中学・高等学校 教諭)

松永 啓佑(本郷中学校・本郷高校 教諭)

運営受付セクション

内田 美穂(三輪田学園中学校・高等学校 教諭)

仲川 英里香(逗子開成中学校・高等学校 教諭)

大塚 晃子(神奈川県立 厚木高等学校 教諭)

高城 光枝(聖心女子学院中高等科 教諭)

広報セクション

齊藤 智晃(渋谷教育学園幕張中学校・高等学校 教諭)

増渕 陽祐(淑徳中学高等学校 教諭)

BG担当

松永 啓佑(本郷中学校・本郷高校 教諭)

齊藤 智晃(渋谷教育学園幕張中学校・高等学校 教諭)

事務局スタッフ

米山 宏(神奈川県公立小学校 教諭)

江口 花音(東京大学)

水谷 泰我(早稲田大学)